

シカの食害も多い

A cartoon illustration of a man with a large red nose and a purple shirt, holding a green plant, standing next to a large, round, yellow object labeled 'せんのおつ'. The man is holding a long stick that is part of the yellow object. The background is a simple landscape with blue sky and green bushes.

丸石

江川

こまどり温泉

江川ハ谷

入河内の美しい山に景が一望できるところ。
桜、新茶、柚子、大根、四季を通じて美しい。

参考文献
『安芸市の民話』
『安芸市史』
『高知新聞』
外

奈比賀

字の読み書きができてゐなかつた
 以前の若者たちは、身近にある
 草花や物に託して恋の情感を現
 していた。
 ハ)谷や入河内では、娘が山仕事
 などの時、恋しい男の弁当箱にきつと
 石9個と大石1個を入れ、恋しい
 (ト石)ここのつ想い(重い)はひとつ
 ということ(を伝へたり)して返
 といふ。

馬のひづめの跡
丸石のトンネルから下歩
方面へ4km。
丸の石に馬のひづめの
跡が刻まれている所が
ある。
1185年、壇ノ浦の戦い
源氏に敗れた平家の
落人が牛久保村のより
谷川を下って馬を走らせ
ていたところでは馬の脚が
あぶってひづめ跡のくまが
かきこまれたといわれる

平家落人の虎馬御前が西の川で
滅びると分散して下久保へ来て
土地を拓き、下久保のもとをついた。
先祖神の氏神は京都のもので
雨若神社とされ、全国でたった
二社しうなく京都由来とされるゆえん。
それと我輩権現愛宕の地蔵様で
火を鎮める力が歴然としているといふ。
この地蔵様も京都から背負ってきた
もので、今でも火事があった時「下久保の
お地蔵様とうきよ願ひます」と
祈ったら隣が焼けてもその家へは
火が燃然之移らないといふ
たいへんご利益のある、うまい
お地蔵様である。

黒瀬の下の「ひび谷」のお釜(おか)に蛇がおれた。
その蛇が出荷ぎに出ている亭主に化けて
毎晩、嫁のもとへやってきていた。
戻った亭主が化物と見破り、その蛇の化身に
針と糸をつけると、ひび谷まで戻って行った。
蛇は金物を嫌うため、針に打たれ命が果てたが、
嫁さんは蛇の種をはらみ、ぎゅる(おたまじゃくし)
みたいな蛇の子をタラクー杯で産んだという。
どうして嫁さんが蛇に見込まれたかというところ
「水鏡に顔と映いて見られん、蛇に見込まれるまで
絶対に水鏡とあるもんじゃない」と言われていたが、
貧乏で鏡がないので、下ひたひ水鏡へ顔を
映いて見ていたからだという。

（黒瀬）

井へ

秋の神祭では市の文化財に指定されて
いる獅子舞が奉納される。
この起源は、大蛇を殺した祟りを鎮める
ためにはじまったとのこと。
ほとんどの神社は南向きに建てられると
が多いが、船岡神社は西向きに祀ら
れている。このお宮を太平洋に向けて
船が止まって動かなくなるため、西向きに
建てられ祀られているという。
昔は決かう漁師が熱心に参拝していた

丹生姫という女神様。
その昔、大なる白鳥が参り
入河内では跡かたもなく
飛ぶされた。
イワサ姫を祀ゐた
お宮も流されてしまつた。
しばらくして、宇治の湊の
ヨロヤという漁師の網に
イワサ姫がかかッ、引きあげ
られ、入河内の方がさらり
と、丹生岡山に示した
と云へ、えられてゐる。

郵便局

お茶工場

菜っぱ田

神社

東川小学校は
特認校なので
安芸市内の
どこに住んで
いても通うことが
できる。

地上に出た首の部分が赤紫色を
 帯び丸っこい形で、大きいものは
 7~10kgにも成長する入河内を
 像徴する大根の王様。
 平家落人が持ち込んだとも
 いわれる伝統野菜。
 甘みがあり、ほくほくおいしい。
 煮崩れをせず、味も
 しみこみやすぐ煮物に
 ぴったり。
 12月下旬から収穫が始まり
 1月に急激に肥大する。
 出荷が始まると公民館
 前のほりか立ち。
 良心市に入河内大根が
 並ぶ。
 入河内大根を使ったレポトリもタワ彩。

県道大久保厚木線 207号
S29年 高知県交通が身芸
入河内線乗り入れ開始。
S46年止まれ代替市営バス
となる。
現在、オレンジ色の「元気バス」
運行。

奈比賀は並川とい
書いていた。
伊尾利・小川川・名村川が
並び流れることに由来する地名。